

# 鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域 埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅱ)

指 宿 地 区

(指宿市・喜入町・山川町・開聞町・穎娃町・三島村)

平成 5 年 度

1994年3月

鹿児島県教育委員会

## 序 文

薩摩半島南部から熊毛・三島にわたる地域は、平成5年度に世界遺産条約に登録された屋久島、鉄砲伝来の地であり科学技術の粋を集めた宇宙基地をもつ種子島、そして風光明媚な池田湖や開聞岳など、観光資源の豊富なところでは、この地域では、県によって「鹿児島サン・オーシャン・リゾート構想」が推進されています。

県教育委員会においても、これを受けて、埋蔵文化財の保護とリゾート開発の調整に必要な資料を得るため、平成4年度から3か年計画で同地域の埋蔵文化財分布調査を実施しています。平成4年度は、熊毛地区の1市4町について、平成5年度は、指宿地区と三島村の1市4町1村について実施しました。その結果、埋蔵文化財包蔵地の分布状況が把握され、早速、各種開発事業との事前協議に活用されています。

本書は、平成5年度の指宿地区と三島村の分布調査結果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護のために御活用いただければ幸いです。

本調査に御協力をいただいた関係市町村教育委員会ならびに関係者の方々に心から感謝の意を表します。

平成6年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 伊牟田 茂 夫

## 例 言

1. 本書は、平成5年度に実施した「鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域埋蔵文化財分布調査」の報告書である。
2. 本年度は指宿地区1市4町（指宿市・喜入町・山川町・開聞町・穎娃町）及び三島村（黒島）を対象とした。
3. 調査にあたっては、各市町村作製の2万5千分の1及び1万分の1の地形図を利用した。本報告書の付図には国土地理院の許可を得、同院発行の2万5千分の1の地形図を利用した。
4. 本報告書の遺物実測・トレース・レイアウト、写真撮影は堂込・中村が行った。
5. 挿図の縮小倍率は次のとおりである。

土器……………50%	石器……………75%
------------	------------
6. 本書の執筆・編集は中村・堂込が行った。

## 報告書抄録

ふりがな	かごしま <span style="float: right;">ちいきまいぞうぶん かざいぶん おちようきほうこくしょ</span>							
書名	鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅱ)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	68							
編著者名	中村和美 堂込秀人							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒892 鹿児島県鹿児島市山下町14番50号						TEL 0992-26-8111	
発行年月日	西暦 1994年 3月 31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺称番号	° / ′	° / ′		m <sup>2</sup>	
宇都山遺跡 他21	揖宿郡喜入町			31°18′ } 31°26′	130°29′ } 130°37′30″	1993.11. 4 } 11. 8		分布調査
中尾迫遺跡 他11	揖宿市					1993.11. 9 } 11.12		
森山遺跡 他1	揖宿郡山川町			31°09′ } 31°18′	130°30′ } 130°37′30″	1993.11.17 } 11.18		
西土器遺跡	揖宿郡開聞町					1993.12. 6 } 12. 7		
塩取口遺跡 他6	揖宿郡額娃町			31°13′ } 31°20′	130°22′30″ } 130°30′	1993.11.29 } 12. 2		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宇都山遺跡 他42遺跡	散布地	縄文 古墳 古代	—	土器片, 土師器片, 須 恵器片, 青磁片		採集品		

## 目 次

序文		第2章 調査報告	7
例言		第1節 喜入町の調査	7
報告書抄録		第2節 指宿市の調査	15
第1章 調査の経過	5	第3節 山川町の調査	22
第1節 調査に至るまでの経過	5	第4節 三島村の調査	24
第2節 調査の組織	5	第5節 穎娃町の調査	28
第3節 調査の経過	6	第6節 開聞町の調査	31

## 挿 図 目 次

第1図 喜入町内採集遺物実測図	14	第5図 黒島の遺物採集位置図	25
第2図 指宿市内採集遺物実測図(1)	18	第6図 黒島採集遺物実測図	27
第3図 指宿市内採集遺物実測図(2)	21	第7図 穎娃町内採集遺物実測図	29
第4図 山川町内採集遺物実測図	23		

## 表 目 次

第1表 分布調査の経過	6	第4表 山川町内の遺跡	22
第2表 喜入町内の遺跡	7	第5表 穎娃町内の遺跡	28
第3表 指宿市内の遺跡	15		

## 図 版 目 次

図版1 喜入町内の遺跡	9	図版7 山川町内の遺跡	23
図版2 喜入町内の遺跡	10	図版8 黒島の調査	26
図版3 喜入町内の遺跡	12	図版9 穎娃町・開聞町内の遺跡	30
図版4 喜入町内の遺跡	13	図版10 遺物写真(1)	32
図版5 指宿市内の遺跡	17	図版11 遺物写真(2)	33
図版6 指宿市内の遺跡	20	図版12 遺物写真(3)	34

## 付 図

付図1 喜入町遺跡分布図		付図3 穎娃町遺跡分布図	
付図2 指宿市・山川町・開聞町遺跡分布図			

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、サン・オーシャン・リゾート計画の進展に合わせて、4市15町1村（指宿市・喜入町・山川町・穎娃町・開聞町・三島村・西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町・枕崎市・加世田市・笠沙町・大浦町・坊津町・知覧町・川辺町・吹上町・金峰町）について埋蔵文化財分布調査を平成4年度から6年度までの3か年の予定で計画した。

これは、埋蔵文化財の保護とサン・オーシャン・リゾート開発との調整のための基礎資料を得ることを目的としたものである。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項(昭和46年4月)に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆ごとの悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施することとした。また、その結果について分布図・報告書を作成し、関係機関に配布する。

平成5年度は、指宿市・喜入町・山川町・穎娃町・開聞町・三島村の1市4町1村を対象にして埋蔵文化財分布調査を実施した。また、今回は鹿児島県耕地事務所が平成6年度以降に事業を計画している地域も重点的に調査を行った。調査期間は平成5年11月4日から12月8日のうち20日間を要した。三島村は調査期間内には黒島地区のみの調査を行った。竹島・硫黄島地区については年度内に調査を実施し、次回報告を行う予定である。

## 第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	伊牟田 茂 夫
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課 長	向 山 勝 貞
調査企画担当者	鹿児島県教育庁文化課	課 長 補 佐	梅 北 一 人
〃	〃	主任文化財主事 兼埋蔵文化財係長	吉 永 和 人
調査担当者	〃	文化財主事	堂 込 秀 人
〃	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財研究員	中 村 和 美
調査事務担当者	鹿児島県教育庁文化課	主幹兼企画文化係長	平 野 誠 一
〃	〃	主 査	枇 杷 雄 二

調査にあたっては、喜入町教育委員会、指宿市教育委員会、山川町教育委員会、三島村教育委員会、穎娃町教育委員会、開聞町教育委員会・三島村立大里小中学校・片泊小中学校の協力を得た。

採集品のうち、陶磁器については専修大学文学部教授亀井明德氏の御教示を得た。

調査協力者 有村紹雄・中道博哉・永野達郎（喜入町）下山覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭（指宿市）松下尚明・日高鐵也（山川町）大谷昭郎・渡辺直己・川野光彌・日高政行・日高学・濱田兼伍・日高武市（三島村）梶井正人（穎娃町）日高政明（開聞町）成尾英仁（鹿児島玉竜高校）

### 第3節 調査の経過

調査は平成5年11月4日から12月8日までの20日間、喜入町・指宿市・山川町・三島村(黒島)・  
 穎娃町・開聞町の順に実施した。下表によって概略説明する。その他、次の日程で写真撮影を行っ  
 た。

- 11月15日 喜入町・指宿市（指宿市内は市教委・鎌田洋昭氏に同行して頂いた。）
- 12月7日 午後から穎娃町・開聞町・山川町の写真撮影
- 12月8日 喜入町・指宿市の写真撮影

第1表 調査の経過

市町村	月 日	調 査 地 区	市町村同行者	備 考
喜入町	11月4日	小田代・一倉・横井・新田・湊田・鎮守神社	中道博哉・有村紹雄	
	11月5日	運動公園周辺・瀬々串・樋高・中名・中名下	永野達郎	
	11月8日	東原・西原・有田原・シブシ原	有村紹雄	
指宿市	11月9日	永峯・白山・水迫・久保・宮之前・西方・魚見	鎌田洋昭	中村は埋文センター
	11月10日	下吹越・魚見岳山麓・岩崎観光ホテル周辺	なし	午後から雨
	11月11日	大渡（フェニックスホテル）・指宿養護学校・国立病院・向吉・南迫田・柳田	なし	
	11月12日	今和泉～池田・池田湖周辺・温湯・指宿高校西側・尾長谷迫・魚見岳	なし	
山川町	11月17日	福元（山川小学校～竹山）	日高鐵也	堂込は長崎出張
	11月18日	福元（地熱発電所～竹山）・成川～鰻・小川	日高鐵也	
三島村	11月23日	<黒島>大里（大里小中学校周辺）	大谷昭郎・川野光彌 ・日高政行	
	11月24日	<黒島>大里（大里小中学校・冠神社周辺）大平瀬・中里・片泊（出張所～港）	大谷昭郎・川野光彌 ・日高政行・濱田兼伍・日高学	
	11月25日	<黒島>片泊（片泊小中学校周辺）・イバドンの墓	大谷昭郎・川野光彌 ・渡辺直己	
穎娃町	11月29日	指宿スカイライン周辺・上淵別府	なし	
	11月30日	只角・御領上・鳥山・摺木・大川・別府小南側・矢越	なし	
	12月1日	「ふるさと農道」関係の調査一辻風岡・加治佐東・安田・熊ヶ谷	梶井正人・町耕地課西氏	午後雨
	12月2日	前原・浜村・高取・木之元・坂上・尾曲・青戸	なし	
開聞町	12月6日	上野・仙田東・玉の井周辺・源太郎・丸山・宮道（山川町）	なし	
	12月7日	開聞中周辺・松原田・枚聞神社周辺・鏡池北側台地・京田・堀川（穎娃町）	なし	

## 第2章 調査報告

### 第1節 喜入町

喜入町は、北に鹿児島市、南に指宿市が接する。東は鹿児島湾が開け、西側は南薩山地の分水嶺となり、東西約6km、南北約16kmの細長い町である。南薩山地の東側にあたり、町内西側は急傾斜地となっており、平野部が少ない。鹿児島湾に面した地域では台地が形成され、高野原から有田原にかけてはシラス台地で海岸沿いまで迫っている。

これまでに66か所の遺跡が知られていたが、今回の調査によって22の遺跡が新たに追加された。

第2表 喜入町内の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	遺物	時代
1	横井頭	一倉横井頭	丘陵	スクレイパー・黒曜石	旧石器
2	陣ノ尾	一倉陣ノ尾・冷水ケ谷・西上原	台地	土器(成川式)・黒曜石	縄文・古墳
3	曲畑	一倉曲畑	河岸段丘	グレイバー・土器(成川式)	旧石器・古墳
4	小松比良岡	一倉小松比良岡	丘陵	土器(縄文・成川式)	縄文・古墳
5	鬼ヶ久保(周知)	一倉東鬼ヶ久保	丘陵	土器(須恵器・成川式・土師器)	古墳・古代
6	油木原	喜入油木原	丘陵	土器(成川式)	古墳
7	山中	喜入山中	丘陵	土器(縄文・成川式)	縄文・古墳
8	高野北	喜入高野北他	台地	土器(成川式)	古墳
9	宇都山	瀬々串宇都山	舌状台地	土器(成川式)	古墳
10	松ヶ柙	瀬々串松ヶ柙	舌状台地	土器(成川式)	古墳
11	鷓鴣狩	瀬々串鷓鴣狩	河岸段丘	尖頭器・黒曜石・土器(成川式)	旧石器・古墳
12	丸尾平	瀬々串丸尾平	丘陵	土器(成川式)	古墳
13	村上ノ迫	瀬々串村上ノ迫	丘陵	土器(成川式)	古墳
14	松久保原	中名松久保原	丘陵	土器(縄文・成川式)	縄文・古墳
15	狐ヶ迫	中名狐ヶ迫	台地	土器(成川式・土師器)・土製品	古墳・古代
16	原之鼻	喜入原之鼻他	台地	土器(成川式)・青磁	古墳・中世
17	上周右エ門山野	前之浜上周右エ門山野他	台地	土器(成川式・土師器)・青磁	古墳・中世
18	中和田ノ上	前之浜中和田ノ上他	台地	土器(成川式)	古墳
19	榎迫	前之浜榎迫他	台地	黒曜石・土器(成川式一手捏土器)・白磁	古墳・中世
20	鍋ノ駄床	前之浜鍋ノ駄床	丘陵	土器(縄文・成川式)・黒曜石	縄文・古墳
21	中野原	前之浜中野原他	台地	土器(成川式・土師器)	古墳・古代
22	美女ヶ谷	前之浜美女ヶ谷他	台地	土器(成川式・土師器・須恵器)	古墳・古代
23	ツブシヶ原	前之浜ツブシ原	台地	土器片(成川式)	古墳



### 1 横井頭（よこいがしら）遺跡（第1図—4・図版1）

一倉から横井に向かい、西側の丘陵上に位置し、標高は約100mである。現況は畑地である。ステイパー（4）・黒曜石片が採集された。

### 2 陣ノ尾（じんのお）遺跡（第1図—2・図版1）

喜入町役場から指宿スカイラインの顛娃インターチェンジに向かう、県道の南側の緩やかな丘陵上に位置し、現況は段々畑である。冷水ヶ谷という小字もあり谷頭に位置する。標高は70～120mである。黒曜石や成川式土器（2）の破片が採集された。

### 3 曲畑（まがりはた）遺跡（第1図—5・図版1）

八幡川左岸に形成された河岸段丘上に位置する。標高約75mである。2, 3年ほど前に一帯が圃場整備され、これによってできた断面の薩摩火山灰層下約20cmから、ステイパー（5）が採集された。この他成川式土器片も採集されている。

### 4 小松比良岡（こまつびらおか）遺跡（図版1）

指宿スカイラインに向かう県道南側のやや急な段々畑で縄文土器及び成川式土器の破片が採集された。標高は約110mである。

### 5 鬼ヶ久保（おにがくぼ）遺跡（第1図—3, 6・図版1）

新田に所在する、周知の遺跡である（19—12）。現況は丘陵上の畑地で標高は約110mである。成川式土器片のほか須恵器（3, 6）・土師器の破片が採集された。

### 6 油木原（ゆきばる）遺跡（図版1）

湊田の圃場整備の完了した地区に接した、谷沿いの畑地である。標高約70mである。成川式土器が採集された。

### 7 山中（やまなか）遺跡（第1図—7～9・図版2）

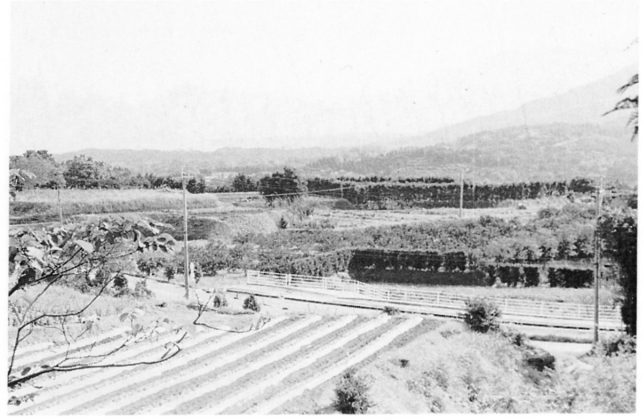
湊田から鎮守神社の前を通っていく。標高は約60mである。現況は畑地で、シラスに見られる軽石が散乱しているが、この丘陵の先端部には貝殻条痕文を施した縄文土器（7～9）や成川式土器片などが落ちていた。

### 8 高野北（こうのきた）遺跡（図版2）

シラス台地である、高野原に喜入町の運動公園が所在し、その北側の畑地で成川式土器片を採集した。標高約50m。造成により、かなり削平されているものと思われ、畑の土壌にはかなりシラスが混ざっている。『鹿児島県の中世城館跡』によると、琵琶山城が所在したが、現在は消滅しているという。また、同じ高野原の北側には愛宕城跡が所在している。



1 横井頭遺跡



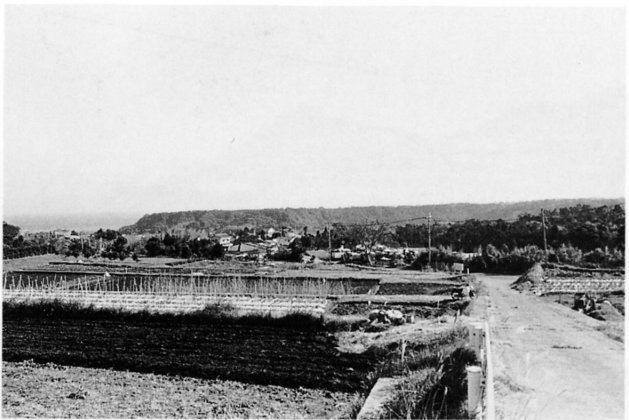
2 陣ノ尾遺跡



3 曲畑遺跡土層断面



3 曲畑遺跡



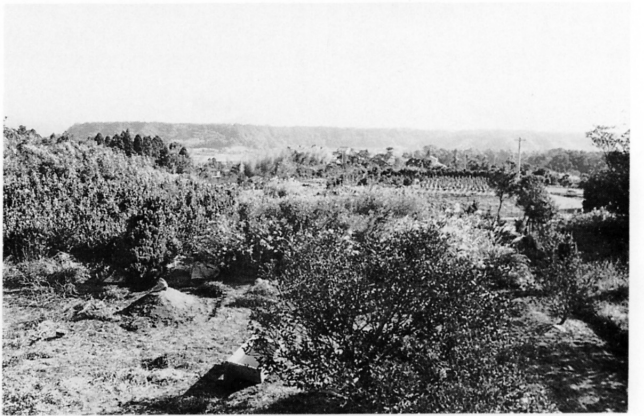
3 淵田から東原台地を望む



4 小松比良岡遺跡



5 鬼ヶ久保遺跡



6 油木原遺跡



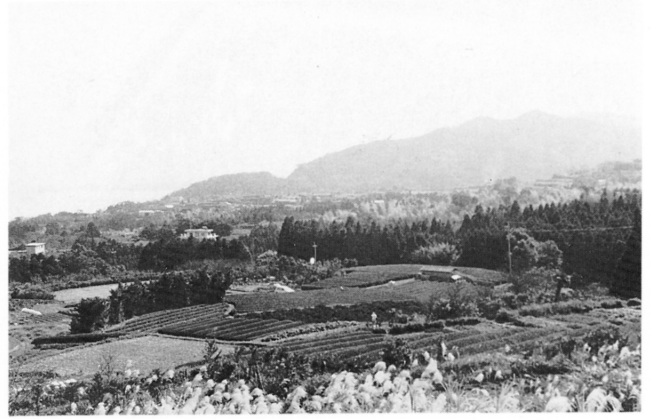
7 山中遺跡



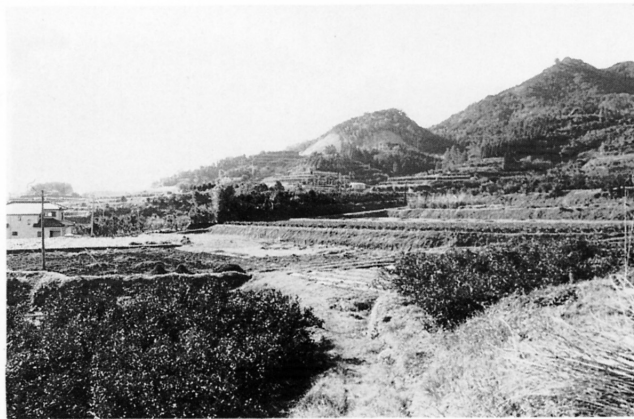
8 高野北遺跡



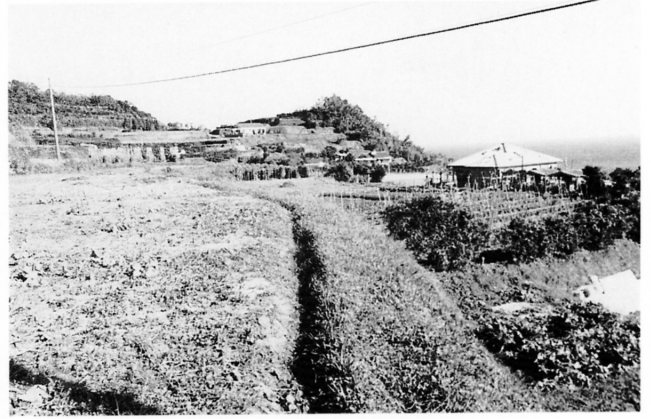
9 宇都山遺跡



10 松ヶ柵遺跡



11 鶺鴒遺跡



12 丸尾平遺跡



13 村上ノ迫遺跡



## 9 宇都山（うとやま）遺跡（図版2）

瀬々串小学校南側の舌状台地上に位置する。標高30～70m。この台地上では以前、喜入町教育委員会によって、下大原・松木田・永野遺跡の発掘調査が行われている。古墳時代の成川式土器片が採集された。

## 10 松ヶ柵（まつがね）遺跡（第1図一1・図版2）

宇都山遺跡などの所在する台地と谷を一つ隔てた舌状台地上に位置する。標高40～70m。この台地も以前町教育委員会によって、小六郎・段之原遺跡の発掘調査が行われている。成川式土器片が採集された。1は外面に朱色の顔料を施し、精良土を用いている。高坏の脚部と思われる。

## 11 鶺鴒（うかり）遺跡（第1図一15・図版2）

樋高川北側で河岸段丘状の地形である。標高は約40mである。現況は水田と畑地であるが、機械をいれたため表層下が露出していた。鉄石英製のポイント(15)や黒曜石・成川式土器片が採集された。

## 12 丸尾平（まるおびら）遺跡（図版2）

鶺鴒遺跡の北側で、小さな谷を隔てた丘陵上に位置する。標高は約40m。現況は畑地とみかん畑である。成川式土器片が採集された。

## 13 村上ノ迫（むらかみのさこ）遺跡（図版2）

樋高川の南側のやや傾斜した丘陵で表採資料はみられなかった。しかし、水害による崩壊断面で成川式土器片が採集された。標高は約30mである。

## 14 松久保原（まつくぼばる）遺跡（図版3）

村上ノ迫遺跡と谷を一つ隔てた台地上に位置する。標高30～40mで、現況は畑地で、縄文土器及び成川式土器片が採集された。

## 15 狐ヶ迫（きつねがさこ）遺跡（図版3）

海岸線よりやや奥まったところに位置するシラス台地である。標高約40mである。畑地で、成川式土器・土師器片等が採集された。

## 16 原之鼻（はらのな）遺跡（第1図一10・図版3）

シラス台地である東原台地のもっとも北側の先端部である。標高約50m。現況は畑地である。成川式土器片・雷文帯を有する竜泉窯系青磁片(10)が採集された。

## 17 上周右エ門山野（かみしゅうえもんさんや）遺跡（第1図一11・図版3）

東原台地のほぼ中央部である。標高約65m。現況は畑地である。成川式土器・土師器・竜泉窯系青磁(11)が採集された。海岸より側が遺物の散布が多くみられる。



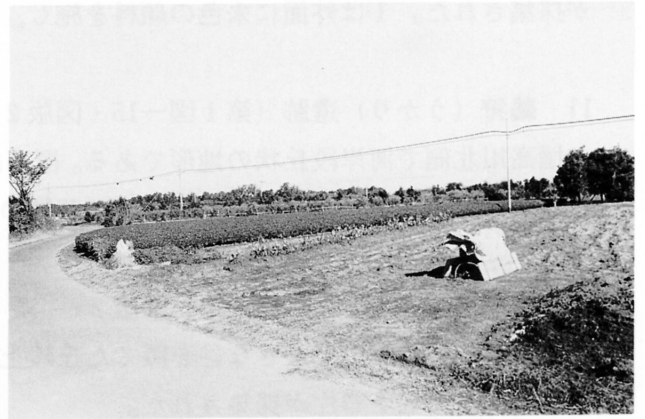
14 松久保原遺跡



15 狐ヶ迫遺跡



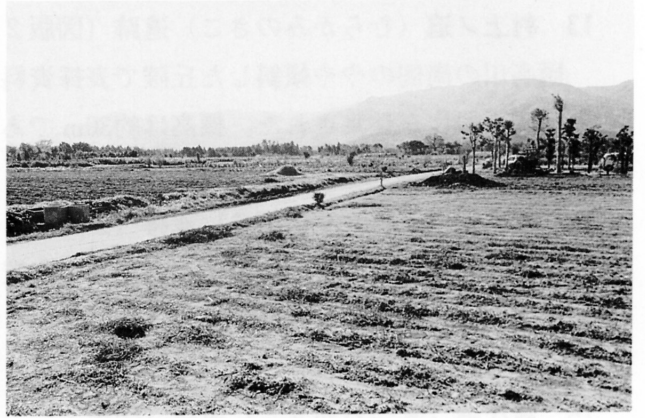
16 原之鼻遺跡



17 上周右工門山野遺跡



18 中和田ノ上遺跡



19 榎迫遺跡



20 鍋ノ駄床遺跡



21 中野原遺跡



22 美女ヶ谷遺跡



23 ツブシヶ原遺跡

18 中和田ノ上（なかわだのうえ）遺跡（図版3）

東原台地の南側に位置し、標高は約65mで、現況は畑地である。成川式土器片が採集された。

19 榎迫（えのきざこ）遺跡（図版3）

東原台地の南部分の西側に位置し、西原と呼ばれている。標高約70m。現況は畑地である。黒曜石片・成川式土器片（手捏土器）・白磁片が採集された。

20 鍋ノ駄床（なべのだとこ）遺跡（図版3）

西原の西端、現況は畑地であるが、谷頭に位置する。標高約80m。沈線文を有する縄文土器・成川式土器片・黒曜石片が採集された。

21 中野原（なかのはら）遺跡（図版3）

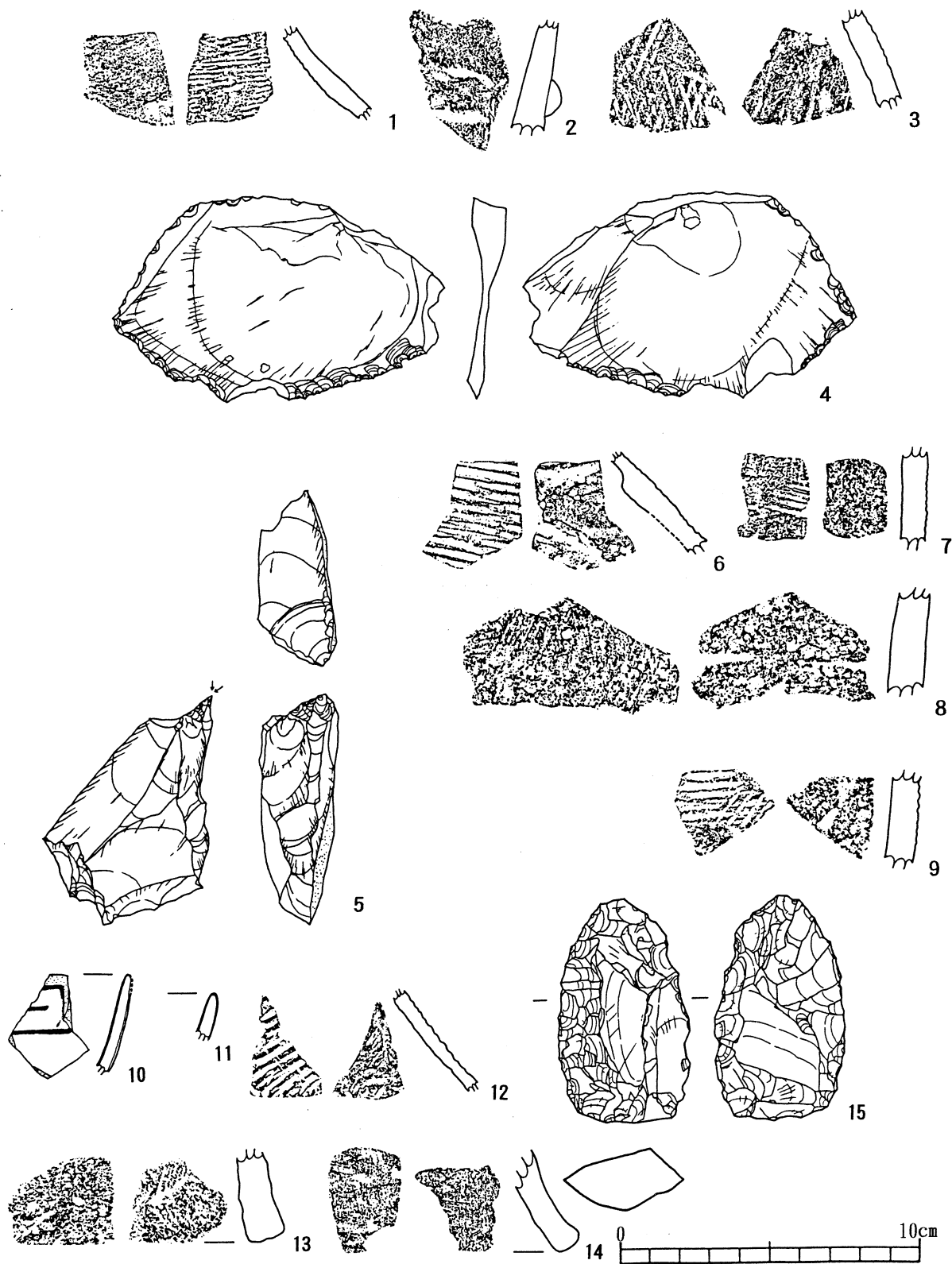
東原台地の南側、前之浜よりの台地である。現況は畑地で標高約70m。成川式土器・土師器片が採集された。

22 美女ヶ谷（びじょがたに）遺跡（第1図-12・図版4）

有田原台地（シラス台地）上に位置する。現況は畑地であるが、旧地形をかなり残しているものと思われる。標高60～75m。成川式土器・土師器・須恵器片（12）が採集された。なお、有田原の西側には網屋城跡（延元年間～）が存在する。

23 ツブシヶ原（つぶしがばる）遺跡（第1図-13, 14・図版4）

東原台地の西側に谷を隔てたシラス台地がツブシヶ原である。標高約65m。西寄りに凹地があり地元ではこれを「ツブシ」と呼んでいるそうである。成川式土器片が採集された。特に北寄りの畑地に多く散布する。13, 14は甕形土器の脚部である。



第1図 喜入町内採集遺物実測図

## 第2節 指宿市

指宿市は、薩摩半島の東南部に位置し、有名な温泉・観光の都市である。指宿市の南西部には池田湖があり、その北側に鬼門平、北側に清見岳、唐山などが連なっており、東側へ緩やかな丘陵を形成している。これらの山々を源流とした河川がシラス台地をぬうように流れ、鹿児島湾へ注いでいる。鹿児島湾に面した東側の海岸線は約19kmに及ぶ。池田湖は約5,000年前に爆発した池田カルデラによるカルデラ湖である。この爆発による火山噴出物は縄文時代の年代を知るための示準層として活用されている。また、開聞岳噴出物も厚く堆積しており、橋牟礼川遺跡では災害考古学の視点に立った発掘調査も行われている。

今回の調査で、新たに10ヶ所の遺跡を発見し、6ヶ所の周地の遺跡のエリアを限定した。

第3表 指宿市内の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	遺物	時代
1	中尾迫	西方中尾迫	丘陵	土器片(弥生・成川式)	弥生・古墳
2	水迫	西方水迫	丘陵	土器片(縄文・成川式・土師器)	縄文・古墳・古代
3	久保	西方久保他	台地	土器片(縄文・成川式)	縄文・古墳
4	弓場	西方宮之前弓場	台地	土器片(成川式・土師器)・石器	縄文・古墳・古代
5	佐貫原	西方佐貫原他	台地	土器片(弥生・成川式・土師器・須恵器) 軽石加工品	弥生・古墳・古代
6	諏訪原	西方諏訪原	台地	土器片(成川式)・青磁	古墳・中世
7	上吹越	西方上吹越	微高地	土器片(成川式)・青磁	古墳・中世
8	大渡(周知)	十二町大渡	丘陵	土器片(縄文・成川式)	縄文・古墳
9	新番所後(周知)	十二町国立病院新番所後	丘陵	土器片(成川式・土師器)	古墳・古代
10	山王	十二町山王平他	微高地	土器片(成川式)	古墳
11	南迫田(周知)	十二町南迫田他	微高地	土器片(縄文・成川式・土師器)・磁器	縄文・古墳・古代・中世
12	迫田	十二町迫田他	微高地	土器片(成川式)・青磁・白磁・五輪塔	古墳・中世
13	中島ノ下(周知)	中福良中島ノ下	微高地	土器片(成川式)・五輪塔	古墳・近世
14	上玉利Ⅱ(周知)	東方玉利上玉利他	丘陵	土器片(弥生・成川式・土師器)・青磁	弥生・古墳・古代・中世
15	尾長谷迫(周知)	西方十石尾長谷他	台地	土器片(縄文・成川式)石器・チャート	縄文・古墳
16	北川	岩本北川	台地	土器片(縄文)	縄文



### 1 中尾迫（なかおごこ）遺跡（第2図—19・図版5）

永吉集落の南方約500mの丘陵先端部に位置し、標高は約60～70mである。現況は畑地で、二月田から幸屋集落に向かう道路がほぼ中央を通る。弥生土器・成川式土器片が採集された。19は弥生時代中期の甕形土器の口縁端部である。

### 2 水迫（みずさこ）遺跡（図版5）

水迫集落は丘陵中腹の平坦地に所在し、遺跡は集落の東南側畑地に位置する。標高約130mである。縄文土器・成川式土器・土師器が採集された。

### 3 久保（くぼ）遺跡（第2図—16, 17, 第3図—46・図版5）

久保集落の北側畑地に位置し、標高約40mである。中央に県道颯娃・宮ヶ浜線が通る。現況は圃場整備が完了した畑地である。縄文土器（16, 17）・弥生土器（46）・成川式土器が採集された。土器片がかなり散乱していた。

### 4 弓場（ゆみば）遺跡（図版5）

昭和55年度、指宿市教育委員会によって発掘調査された宮之前遺跡と集落一つ隔てた畑地で、ここも圃場整備が完了している。標高約30mの台地上に位置する。石器・成川式土器・土師器片が採集された。なお、谷一つ隔てた台地上には線刻絵画土器が採集された大園原遺跡が所在する。

### 5 佐貫原（さぬきばる）遺跡（第2図—20～25・図版5）

宮之前遺跡と弓場遺跡の北側畑地で沿って、この3遺跡は同一の台地上に位置する。現況は畑地で圃場整備が完了している。標高は約30mである。地表にかなり土器片が散乱しており、弥生土器（20, 21）・成川式土器（23～25）・須恵器（22）・軽石加工品が採集された。24, 25は丹塗高坏の坏部と脚部である。

### 6 諏訪原（すわばる）遺跡（第2図—26・図版5）

魚見小学校北側約200mの畑地一帯で、北側は海岸に面する。台地であり、標高約15mである。成川式土器・14世紀後半のものと思われる竜泉窯系青磁（26）が採集された。

### 7 上吹越（かみふきこし）遺跡（第2図—27・図版5）

上吹越遺跡は『指宿市誌』に記載されている遺跡である。現況は畑地及び集落で、地形的には微高地で、標高約20mである。成川式土器・14世紀後半のものと思われる竜泉窯系青磁片（27）が採集された。

### 8 大渡（おおわたり）遺跡（第2図—28～36・図版5）

大渡遺跡は山川港入り口北側の台地上に位置し、標高30～40mである。現在、フェニックスホテルが建っているところである。1953（昭和28）年、国分直一氏によって調査（『鹿児島考古学会紀



1 中尾迫遺跡



2 水迫遺跡



3 久保遺跡



4 弓場遺跡



5 佐貫原遺跡



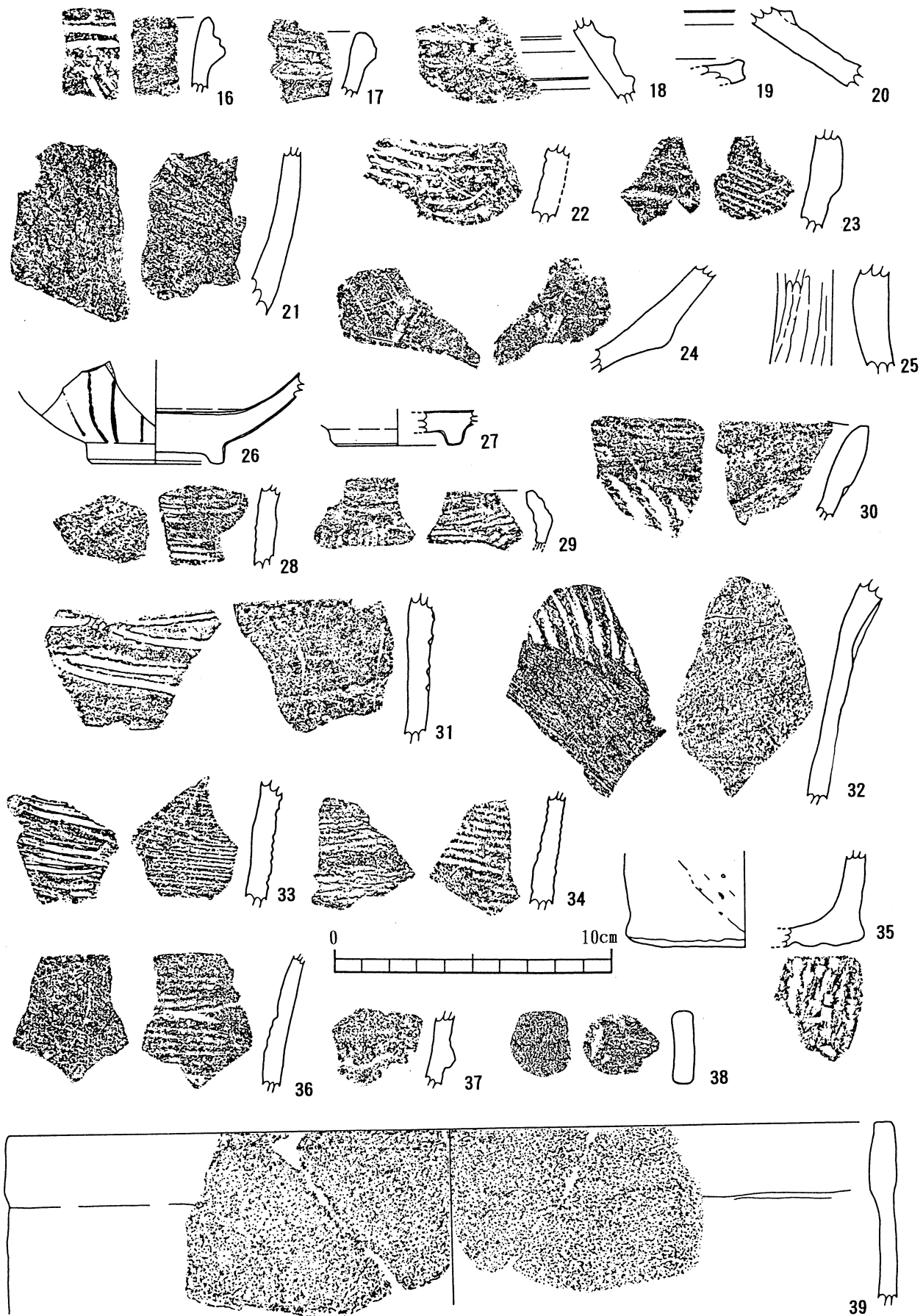
6 諏訪原遺跡



7 上吹越遺跡



8 大渡遺跡



第2図 指宿市内採集遺物実測図(1)

要』4)された、周知の遺跡である。ホテルの敷地内は表面調査は困難であったが、その後背地からし尿処理場にかけて遺物の散布がみられた。その結果、縄文土器(28~36)・成川式土器片が採集された。挿図の土器、29は口縁部が内湾するもので春日式土器の可能性もある。他は後期の土器であろう。

## 9 新番所後(しんばんしょうしろ)遺跡(第2図-37・図版6)

1974(昭和49)年から翌年にかけて鹿児島県教育委員会によって発掘調査(『新番所後遺跡』)された周知の遺跡である。指宿養護学校から国立指宿病院を経、JR指宿枕崎線に至る、緩やかな丘陵である。標高25~50mである。周知の遺跡である、国立指宿病院敷地内遺跡(2-56)も含まれる。今回の調査で成川式土器(37)・土師器片が採集された。

## 10 山王(さんのう)遺跡(第2図-38, 39・第3図-40, 41・図版6)

1991年鹿児島県教育委員会によって発掘調査(『新番所後Ⅱ遺跡』)された周知の遺跡である。この調査では、新番所後としているが、地形・小字・遺跡の性格共に異なるので山王遺跡とした。地形は緩やかな丘陵で、北側に山王川が、南側に第二山王川が流れる。史跡橋牟礼川遺物包蔵地の南側に位置する。標高は20~40mである。現況は、畑地及び集落で、ほぼ中央に国道が通る。成川式土器の鉢が土層断面から採集され(40)、畑地表面からも土器が採集された。なお、以前の発掘調査では、縄文時代晚期土器・石器及び弥生時代中期の土器も出土している。38は成川式土器再利用の円盤形土製品、39は成川式土器甕の口縁部、41は高坏の坏部である。

## 11 南迫田(みなみさこだ)遺跡(第3図-42, 43・図版6)

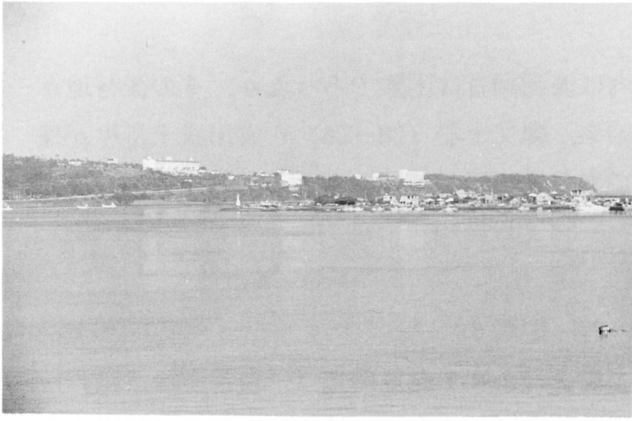
『指宿市誌』に記載のある遺跡である。分布調査中に指宿市教育委員会によって発掘調査が行われていた。南指宿中学校周辺の微高地で、畑地及び集落である。標高は約20mである。発掘調査の断面観察によると開聞岳噴出物の流堆積層がかなり厚い。縄文土器(42)・成川式土器(43)・土師器・青磁片が採集された。

## 12 迫田(さこだ)遺跡(図版6)

光明禅寺北側に所在し、現況は畑地及び宅地である。標高は約20mである。成川式土器・青磁・白磁片が採集された。また、エリア内に五輪塔の笠もみられた。

## 13 中島ノ下(なかしまのした)遺跡(図版6)

1989(平成元)年、指宿市教育委員会によって発掘調査された遺跡である。グリーンピア指宿のある山の麓、二反田川流域の微高地に位置し、標高は約25mである。現況は畑地・集落及び墓地である。今回の調査では成川式土器片が採集され、墓地内に近世の五輪塔群も存在した。なお発掘調査では、縄文土器・弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器・青磁・白磁・瓦質土器・陶器・古銭などが出土している。



8 大渡遺跡



9 新番所後遺跡



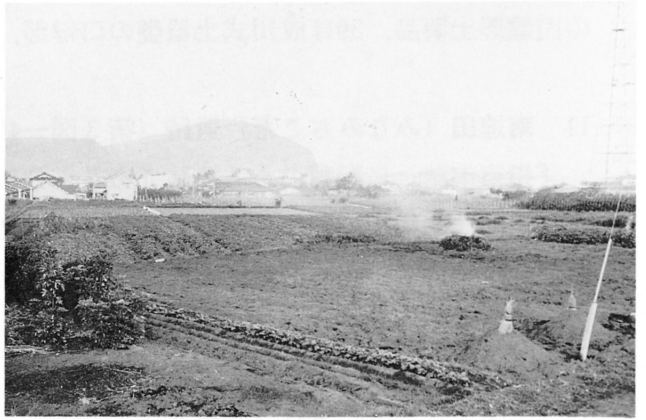
10 山王遺跡



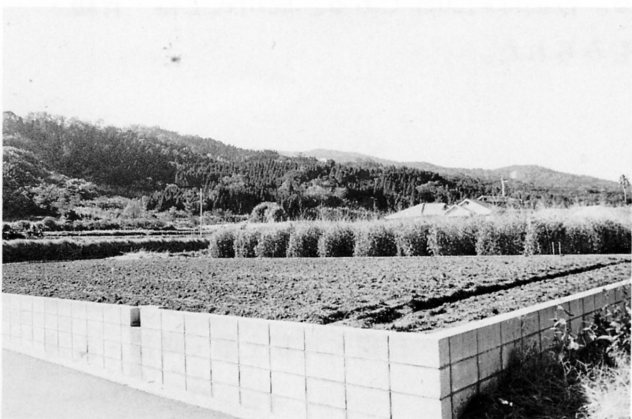
12 迫田遺跡



13 中島ノ下遺跡



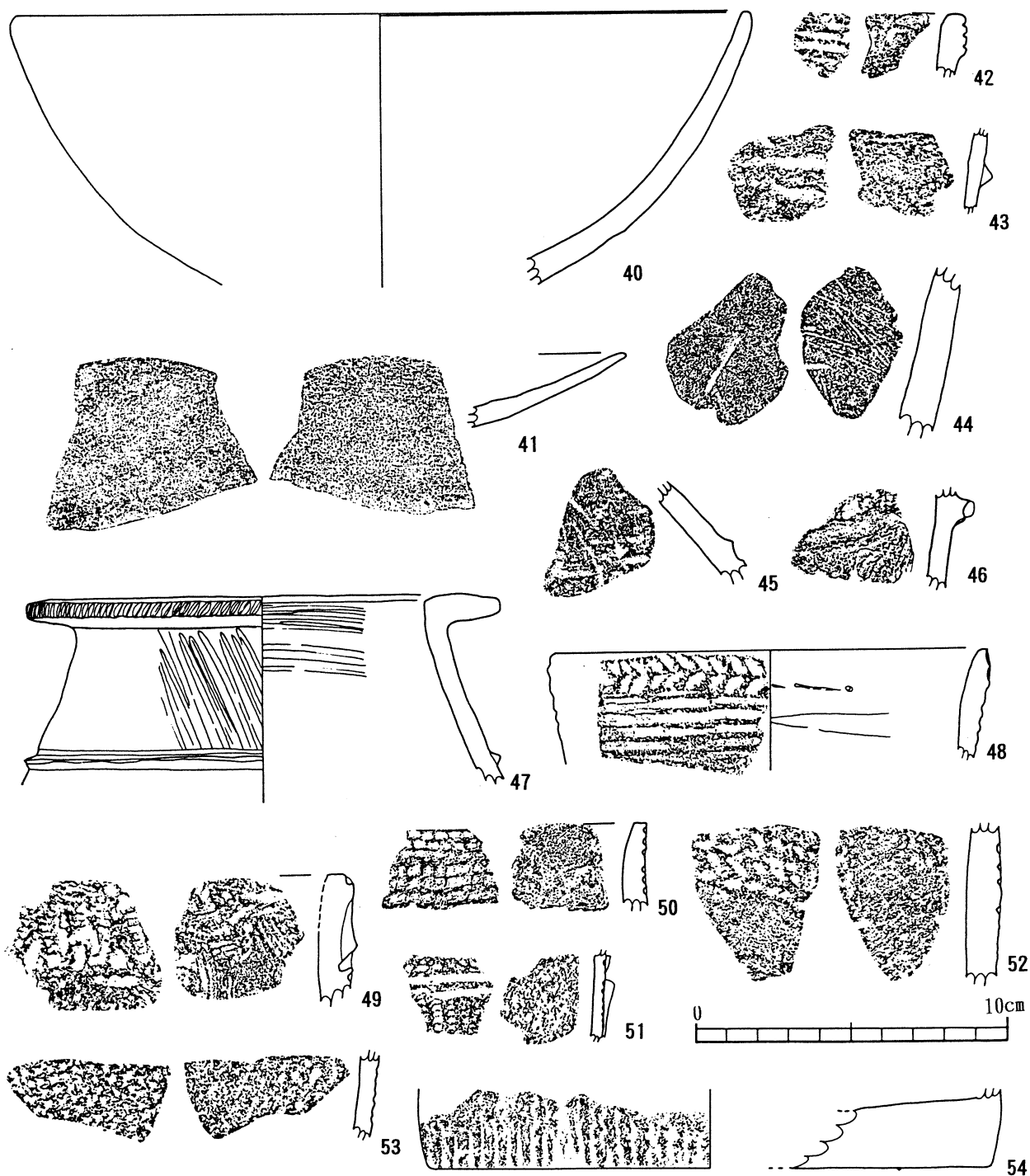
14 上玉利Ⅱ遺跡



11 南迫田遺跡



15 尾長谷迫遺跡



第3図 指宿市内採集遺物実測図

14 上玉利（かみたまり）Ⅱ遺跡（第3図—18, 44, 47・図版6）

指宿高校から西側の山麓にかけての広い範囲の丘陵上に位置し、標高は10～40mである。上玉利遺跡は、『指宿市誌』弥生時代後期の遺跡として記載されており、上玉利Ⅱ遺跡の東側である。また、周知の遺跡である指宿高校校庭遺跡（2—17）も今回の範囲内に含まれる。現況は学校・集落・畑地であるが、かなり宅地化が進んでいる。弥生土器（18, 44）・成川式土器・土師器・青磁片が採集された。47は1年ほど前に指宿高校西側で宅地造成工事中に発見された弥生時代土器の壺である。

ある。口縁端部に斜方向に刻みを、胴部上位はへらみがきを施し、断面三角形の突帯を巡らす。移入品と思われる。

#### 15 尾長谷迫（おばせごこ）遺跡（第3図—45・図版6）

尾長谷迫遺跡は『指宿市誌』にも記載されている周知の遺跡で、昭和60年度、指宿市教育委員会によって発掘調査された。古墳時代の製鉄遺構が検出された遺跡として知られている。シラス台地上の畑地で、標高約25～50mである。今回、縄文土器・弥生土器（45）・成川式土器片・石器・チャート片が採集された。

#### 16 北川（きたがわ）遺跡（第3図—48～54）

成尾英仁氏によって遺物が採集された。シラス台地上に位置するが、シラス採取のためかなり破壊されている。遺物はすべて縄文時代早期の貝殻文系円筒土器である。48～50は口縁部、54は底部である。

### 第3節 山川町

山川町は薩摩半島の東南部に位置し、北に指宿市、西に開聞町と接する。東と南は広く海に面しており、水産・水産加工業の町として知られる。

地形的には、火山性の地形が多く、山川港及び成川地区はマールであり、それぞれ山川マール、成川マールと呼ばれている。また北部の鰻池も火口湖である。町内の地下には、良好な地熱が存在し、地熱発電所の建設も進んでいる。また、地熱を利用した花卉の促成栽培、観光も重要な産業である。

山川町内では、昭和33年文化庁によって発掘調査が行われた成川遺跡をはじめ24か所の遺跡が知られているが、今回新たに1か所発見した。時間的な制約もあるけれども、開聞岳噴出物である、コラがかなり厚いことも分布調査による遺跡発見を困難にしているといえる。

第4表 山川町内の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	遺物	時代
1	下原・神方(周知)	成川	火口内台地	土器(弥生・成川式・須恵器)	弥生・古墳
2	森山	成川	丘陵	土器(成川式)	古墳

#### 1 下原・神方（しもはら・かみほう）遺跡（第4図—55～57・図版7）

成川マール内の北端にできた沖積地で、周知の遺跡、下原・神方遺跡（20—4・10・11）を包括する。現況は集落・畑地及び墓地である。標高約35mである。露頭で、口縁部が逆L字状に外反し胴部に断面三角形の突帯を有する甕形土器（57）や、須恵器（55）が採集され、地表から成川式土器・須恵器坏身（56）が採集された。

#### 2 森山（もりやま）遺跡（第4図—58・図版7）

成川遺跡の南西約300m谷川を隔てた、丘陵の先端部に位置する。標高は40～70mである。現況は畑地であるが、宅地化しつつある。成川式土器（57）が採集された。



1 下原・神方遺跡

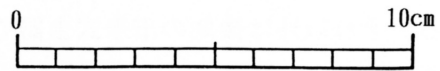
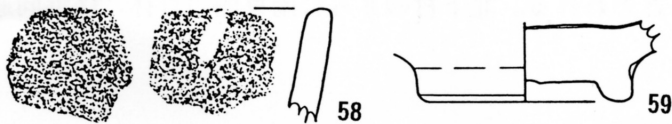
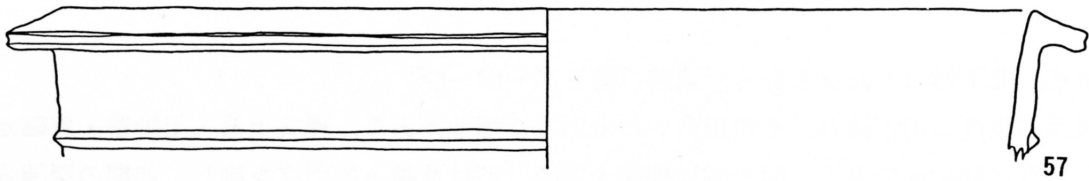
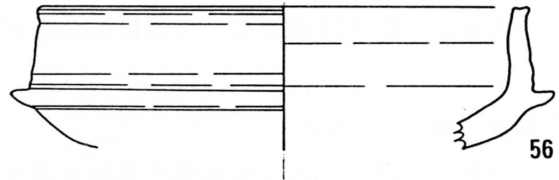


—コラ  
—コラ  
須恵器

1 下原・神方遺跡の断面



2 森山遺跡



第4図 山川町内採集遺物実測図

59は福元地区の山川水産加工業協同組合の南西側畑地で採集された、13世紀のものと思われる竜泉窯系青磁の底部である。



## 第4節 三島村（黒島）

三島村は、薩摩半島の南、約30km南に点在する竹島・硫黄島・黒島の三島からなる村で、南東に種子島・屋久島・口永良部島を、南にトカラ列島、西に宇治群島を望む。約6,300年前に大爆発を起こした鬼界カルデラは硫黄島付近に位置する。

黒島は周囲15.2kmの島で、海岸から島が急にそそり立ち、海岸線はほとんど岩場である。櫓岳(621.9m)を最高峰とし、「屋久島を小さくした島」といわれる。港のある大里と片泊に集落が形成されている。それ以外は、ほとんどが森林か竹が生い茂った牧場である。牧畜は島の重要な産業である。

これまでに、三島村全体で22か所、黒島で9か所の遺跡が知られている。畑地は少なく集落周辺に集まっている。その他は森林もしくは竹林であり、分布調査は困難であった。また、集落周辺は遺跡の範囲を限定することも困難であった。したがって、本節では北下村遺跡を除き遺物を採集した地点として取り扱うことにする。1～4地点は大里、5～7地点は片泊である。

### 1 地点（第6図—60）

大里小・中学校の北西側、一段下がった畑地で、須恵器壺(60)・白磁などが採集された。標高は約25mである。

### 2 地点（第6図—61, 62・図版8）

大里出張所を南へ向かうと集落内に祠があり、白磁を採集した。62は13～14世紀のものと思われる白磁皿(口禿)、61は15～16世紀のものと思われる朝鮮の李朝白磁皿である。李朝白磁皿は内面にやや大きめの胎土目が残る。付近にはお寺があったと聞く。標高約50mである。

### 3 地点（第6図—63）

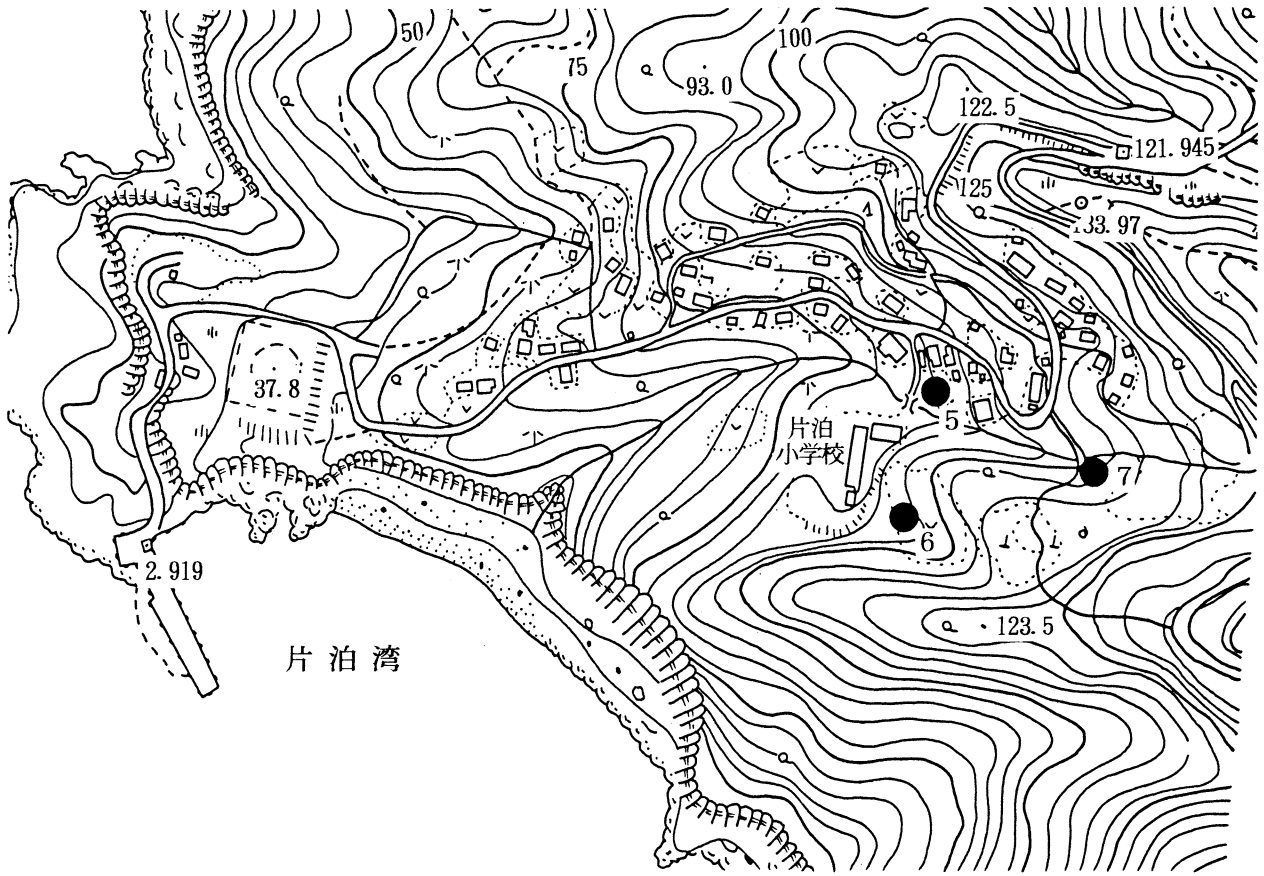
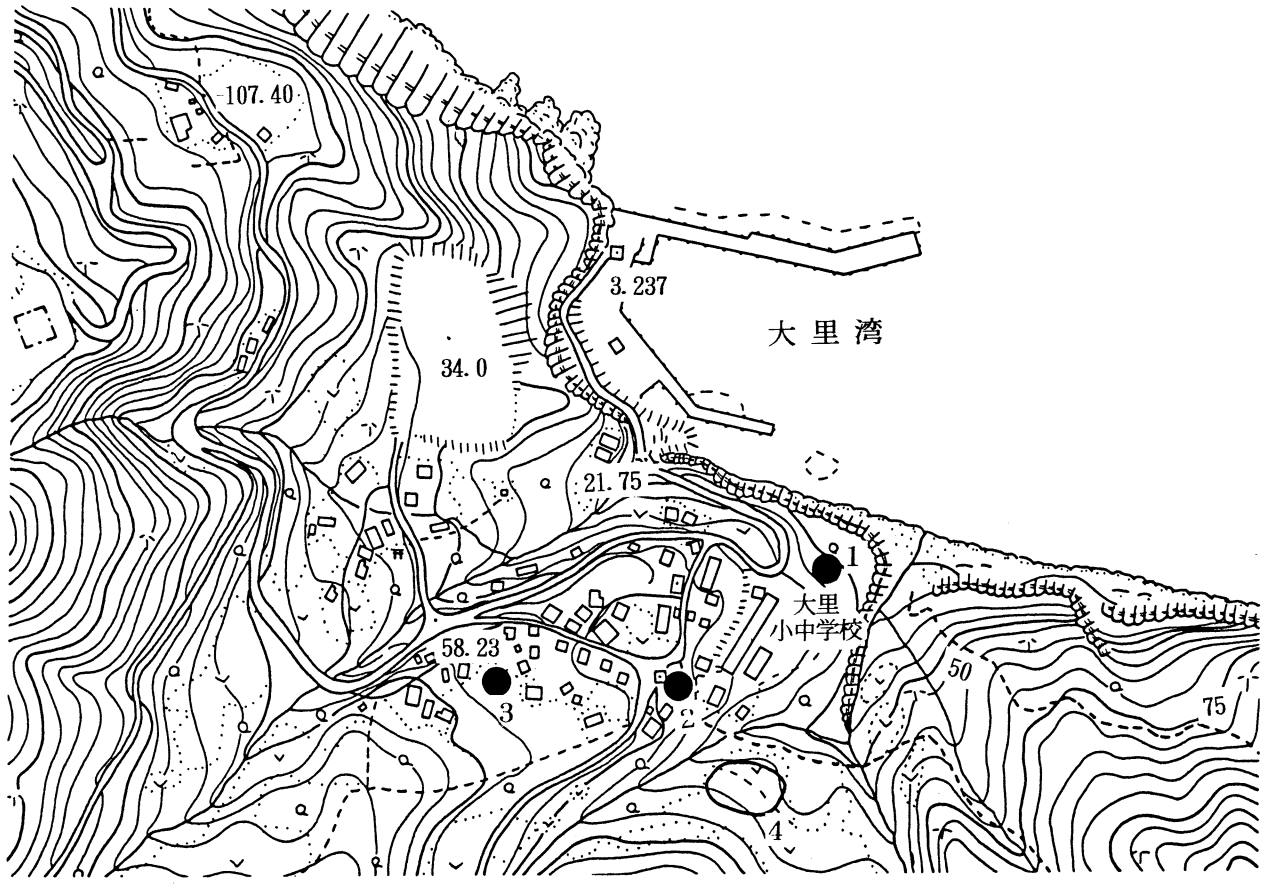
「大墓」と呼ばれる大里集落の墓地があり、その周辺の畑地で土師器・須恵器(63)などが採集された。標高約70mである。

### 4 地点 北下村（きたしもむら）遺跡（第6図—64～68）

集落の東側に川が流れ、その川向いに水田及び畑地があり、縄文土器・土師器・青磁が採集された。標高は約40mである。64～68は縄文土器で、67は沈線と押引文を施し、前期の深浦式土器と思われる。それ以外は後期の市来式土器であると思われる。北下村のさらに南東側の竹林には浜向遺跡が所在する。

### 5 地点（第6図—81）

片泊小・中学校入り口の橋の手前東側、川沿いの畑地で青磁が採集された。標高約85mである。81は青磁で14～15世紀のものと思われる皿である。



第5図 黒島の遺物採集位置図

黒島の調査



黒島大里



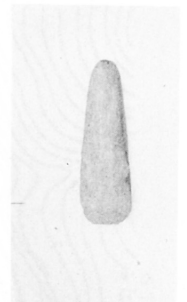
白磁 (61) 採集地



竹林の多い黒島



大里小学校の石斧



日高康雄氏蔵



大里小学校の石斧

6地点

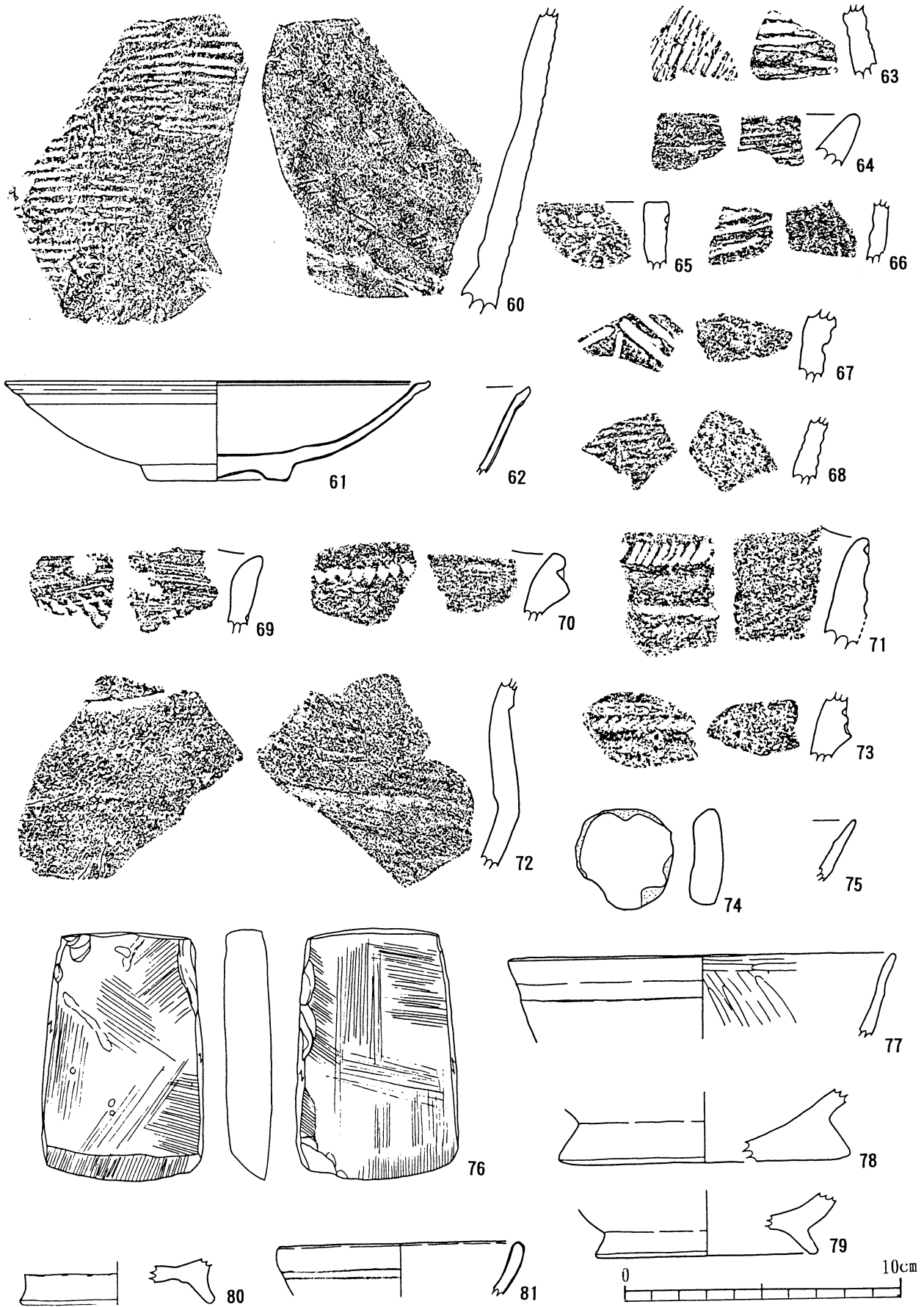
片泊小・中学校裏側の畑地で土師器が採集された。この他、石器の石材と思われる鉄石英も採集された。標高は約95mであるが、傾斜がかなり急である。

7地点

片泊小・中学校の東側約100m、川の左岸で、「ふるさとの木」の所在する付近で青磁の底部と16世紀のものと思われる白磁の小皿が採集された。標高約105mである。

日高武市氏所蔵遺物 (第6図—69~80)

69~80は大里集落居住の日高武市氏宅に保管してある採集遺物である。娘さんが小学生の頃に大里小・中学校の裏で採集したものらしい。学校の裏のあたりは小字が「政所」ということである。69~71は縄文時代後期の市来式土器と思われる。72, 78は縄文時代晩期の粗製土器の胴部と底部である。74は縄文時代後期の土器を再利用し、加工した円盤形土製品(メンコ)で、約3cm程度のものである。76は石斧である。片刃で、稜線が明瞭である。部分的には欠けているがほぼ原形をとどめている。75, 79, 80は土師器である。79, 80は高台部分で、79は内面をみがいているのが特徴である。77は黒色土器A類の口縁部である。体部は丸みをもつものと思われる。



第6図 黒島採集遺物実測図

## 第5節 穎娃町

穎娃町は、薩摩半島の南端に位置し、東は喜入町・指宿市・開聞町、西は知覧町に接している。北部は大野岳・牧神岳・唐牧岳などの旧期火山が連なる山地であり、南部は別府台地である。中央には馬渡川が流れ、台地を深く開折して南流する。南は海に面し、西側は海食崖、東は砂浜で、今回の調査でもこの砂浜付近で、いくつかの遺跡が確認された。

穎娃町は県内有数の畑作地帯である。多くの面積をしめる台地に灌漑をし、大規模な圃場整備を行うことによって広い畑地を獲得している。

分布調査は、圃場整備によって旧地形が残っていないためにより困難で、地形の良好な場所を選定して行った。その結果、新たに7遺跡を確認した。

第5表 穎娃町の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	遺物	時代
1	塩取口	郡9,740—1他	砂丘後背地	土器(成川式)・土錘・青磁	古墳・中世
2	後迫	郡9,713他	砂丘後背地	土器(成川式・土師器)・陶製土錘	古墳・古代他
3	浜村	郡1,049—4他	砂丘後背地	土器(成川式)	古墳
4	高取後	牧之内2,194他	砂丘後背地	土器(成川式)	古墳
5	亀甲(周知)	御領亀甲	丘陵	土器(弥生土器・成川式・土師器)	弥生・古墳・古代
6	相蘭	御領3,099他	丘陵	土器(成川式・土師器)	古墳・古代
7	水迫	御領2,777他	丘陵	土器(成川式・黒色土器A類・須恵器)	古墳・古代
8	宮田下	御領6,408他	河川沿平地	土器(成川式・土師器)	古墳・古代

### 1 塩取口(しおとりぐち)遺跡(第6図—82, 83・図版9)

J R 穎娃駅西側、前原海岸入り口にあたる砂丘後背地で、標高約15mである。現況は畑地及び集落である。畑地は大方、圃場整備が完了している。半円形の突帯有する成川式土器(82)、青磁で体部に細線を縦方向に、口縁付近に波状に施して、剣頭を省略した、16世紀後半のものと思われる竜泉窯系青磁(83)が採集された。この他、土錘も採集されている。

### 2 後迫(うしろご)遺跡(第6図—84・図版9)

前原集落の北側約250mの砂丘後背地で、標高は約25mである。現況は畑地で圃場整備が完了している。成川式土器・土師器などが採集された。84は成川式土器の甕形土器の底部付近で内面に指頭圧痕が見られる。

### 3 浜村(はまむら)遺跡(第6図—85・図版9)

砂丘後背地上に浜村集落があり、その北西端で成川式土器を採集した。周辺は圃場整備が完了した畑地で、集落が微高地状になっている。標高は約20mである。85は断面三角形で指でつまんでいる成川式土器の突帯部分である。この他、丹塗土器も採集されている。

#### 4 高取後（たかとりうしろ）遺跡（図版9）

周知の遺跡，高取遺跡南側に位置する。丘陵が緩やかに伸びた先端部で，海岸に接している。標高は約20mである。成川式土器を採集した。

#### 5 亀甲（かめこう）遺跡（第6図—86・図版9）

城ヶ崎遺跡の調査後，盛土の供給地の候補として分布調査が行われた結果発見された遺跡で，城ヶ崎遺跡東側の丘陵の先端部に位置する。標高は約43mである。現況は畑地である。86は口縁部が逆L字状に外反する甕形土器で，弥生時代中期の土器であると思われる。この他，成川式土器・土師器が採集された。

#### 6 相菌（あいぞの）遺跡（図版9）

亀甲遺跡と道路一つ隔てた同一丘陵上に位置する。標高は30～50mである。現況は畑地である。成川式土器・土師器が採集された。

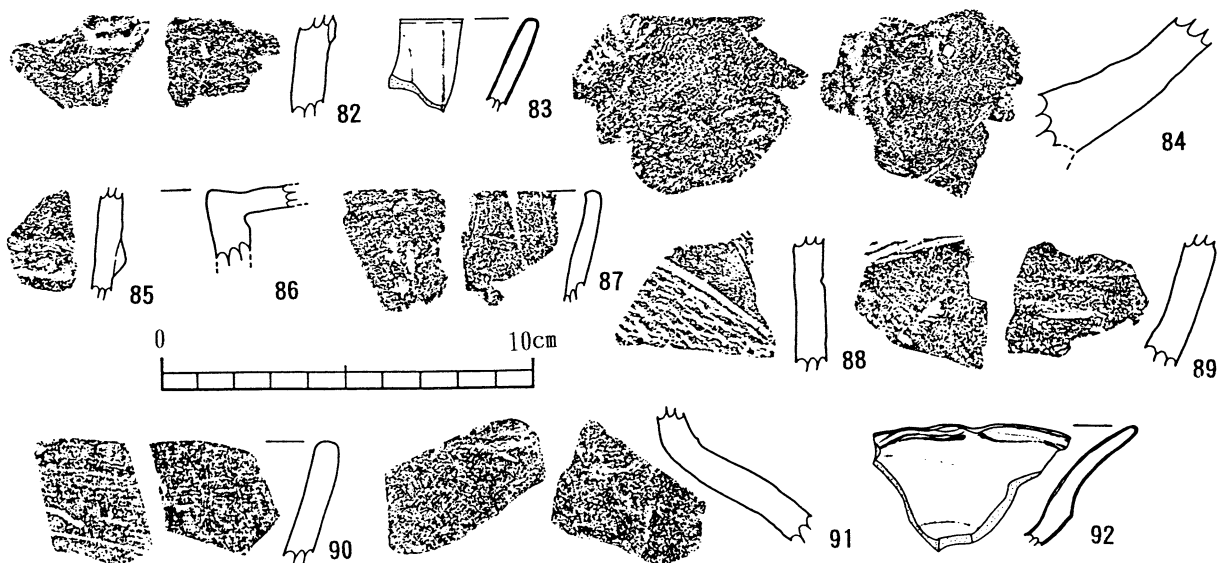
#### 7 水迫（みずさこ）遺跡（第6図—87，89・図版9）

相菌遺跡の北側，谷一つ隔てた丘陵上に位置する。現況は畑地で，標高は30～45mである。成川式土器（87，89）・黒色土器A類・須恵器が採集された。

#### 8 宮田下（みやたした）遺跡（第6図—90，91・図版9）

馬渡川右岸で，平成5年度，穎娃町教育委員会によって発掘調査が行われた堀川遺跡の対岸に立置する。標高5m，現況は畑地である。成川式土器（90，91）・土師器などが採集された。

88は只角の圃場整備の完了した畑地で採集した土器片である。旧地形が不明であり，客土の可能性も含めて，エリアを設定しなかった。塞ノ神式土器の胴部で，撚糸文を施し，沈線によって区画している。92は穎娃町内で採集した竜泉窯系青磁の稜花皿である。



第7図 穎娃町内採集遺物実測図



1 塩取口遺跡



3 浜村遺跡



4 高取後遺跡



5 亀甲遺跡



亀甲遺跡(上)と城ヶ崎遺跡(下)



6 相菌遺跡



7 水迫遺跡



1 西土器遺跡

## 第6節 開聞町

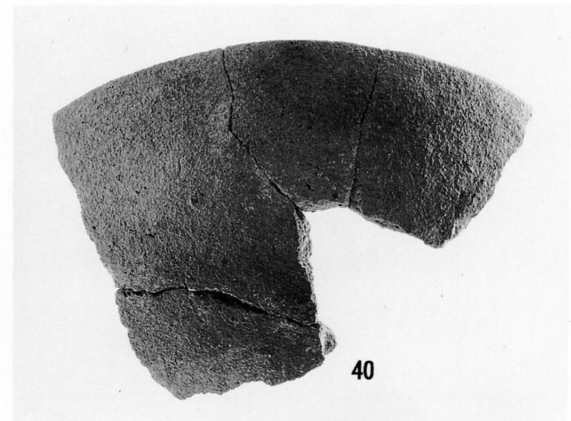
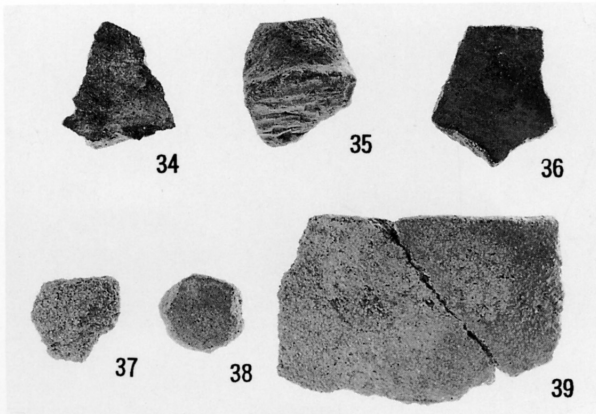
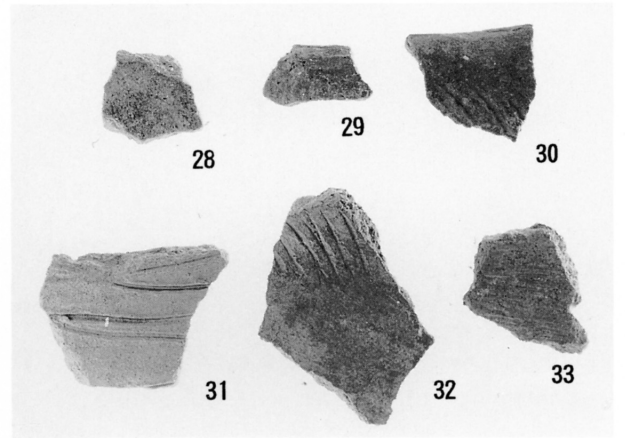
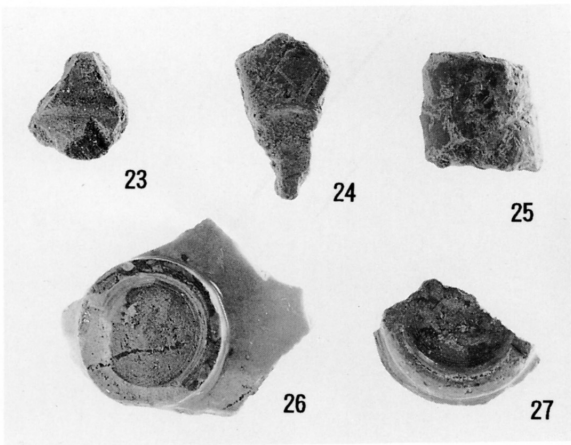
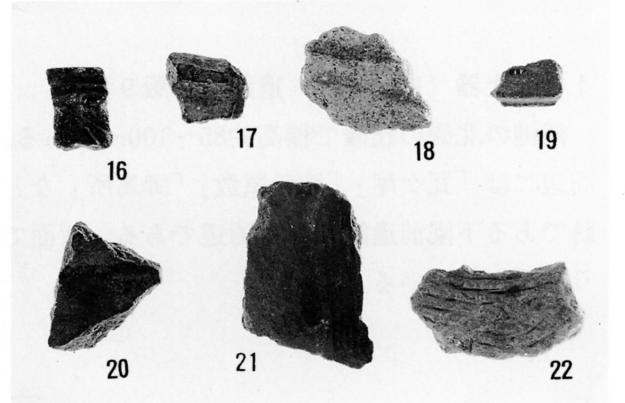
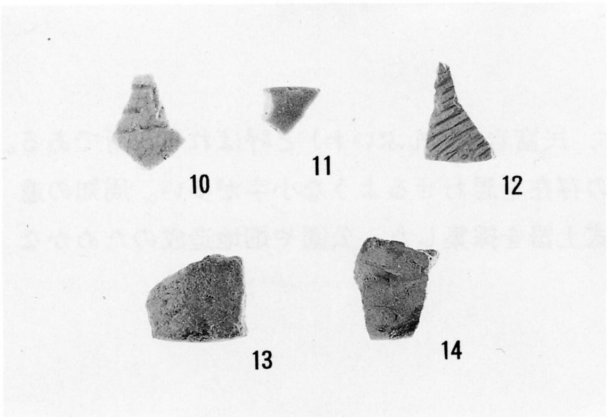
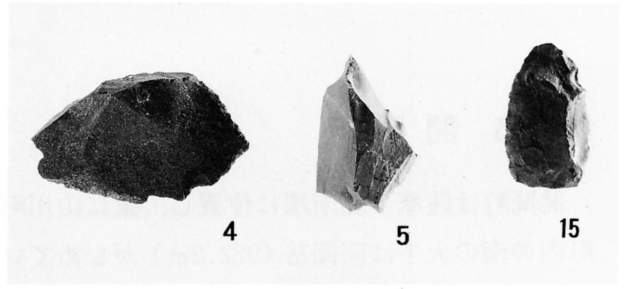
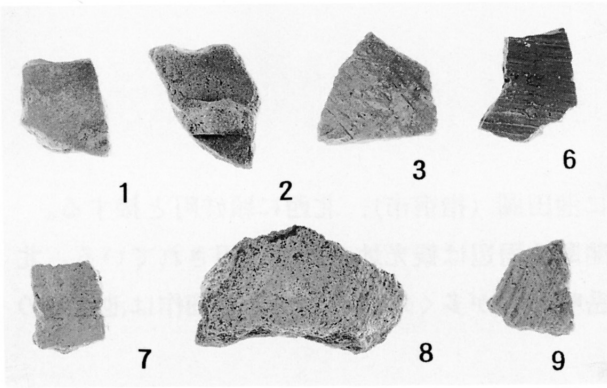
開聞町は薩摩半島南端に位置し、東に山川町、北に池田湖（指宿市）、北西に穎娃町と接する。町内の南の大半は開聞岳（922.2m）がしめている。開聞岳周辺は観光地として活用されている。北側は平地であり、畑地及び集落となっている。開聞岳噴出物が多く堆積しており、畑作は池田湖の水を利用した灌漑が行われている。

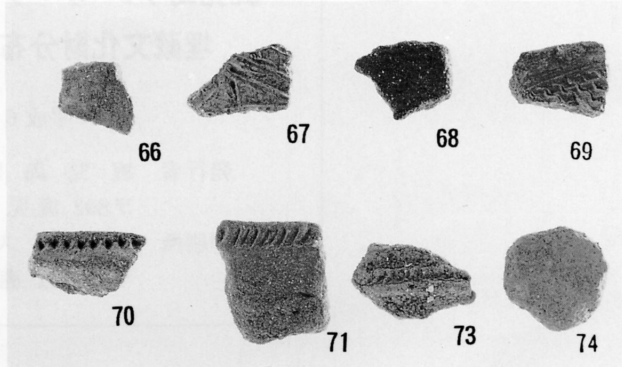
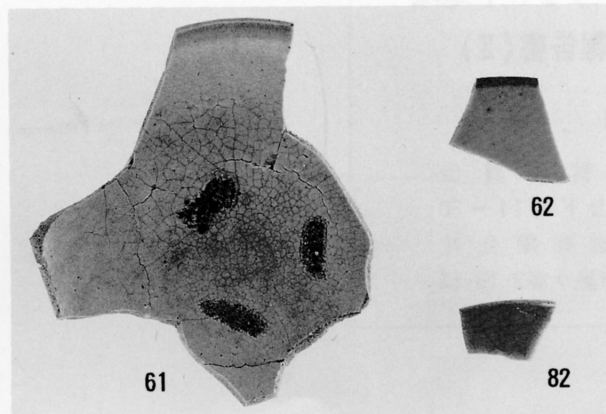
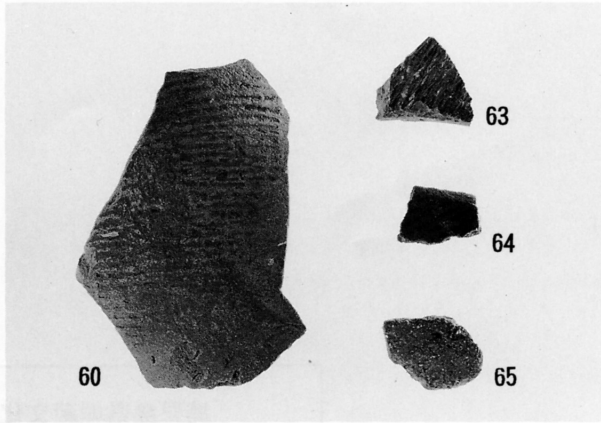
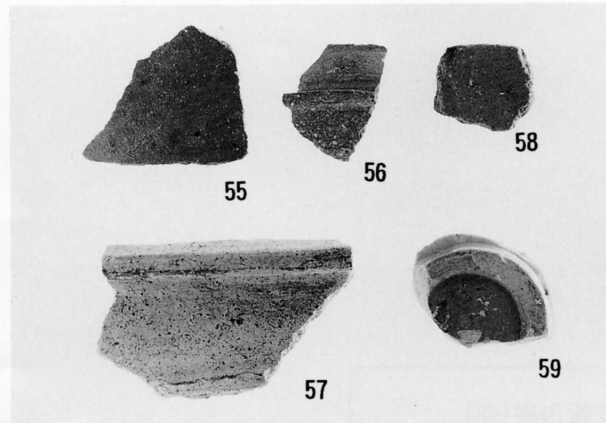
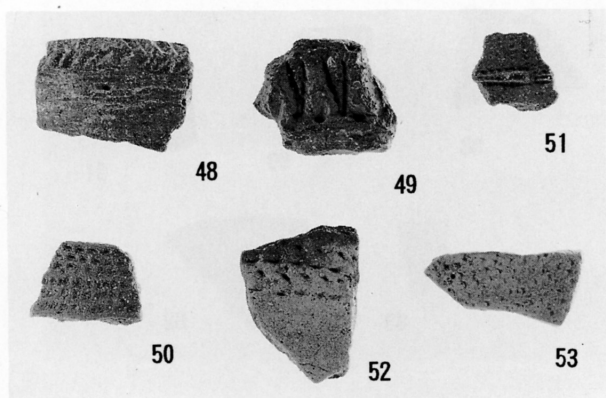
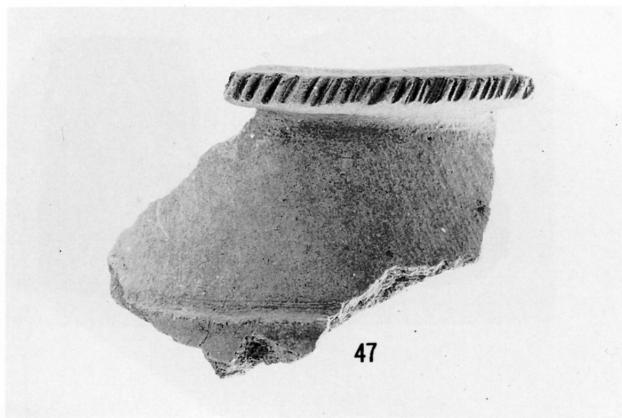
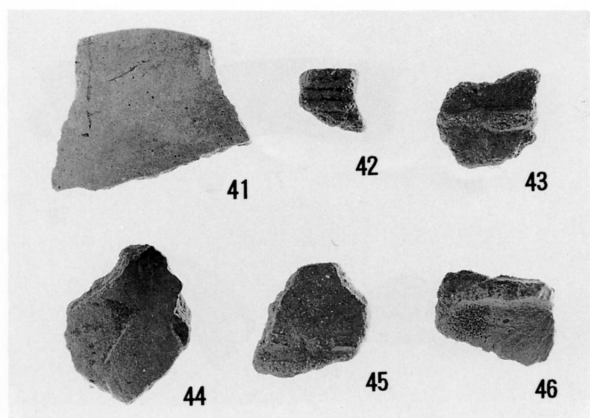
これまでに22か所の遺跡が知られているが、圃場整備やコラや池田湖噴出物のため今回の分布調査による遺跡発見は困難であった。したがって、わずか1か所の遺跡発見に留まった。

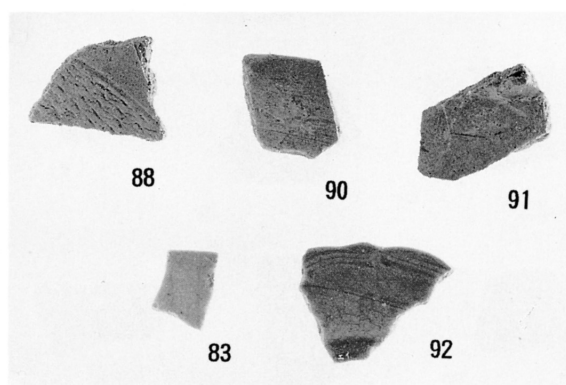
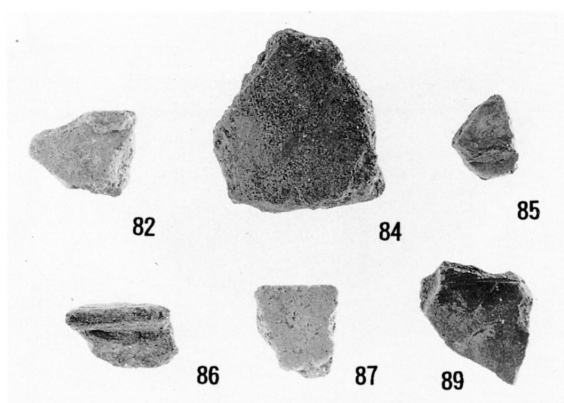
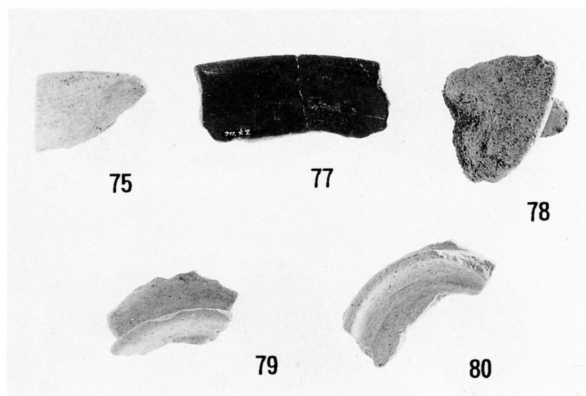
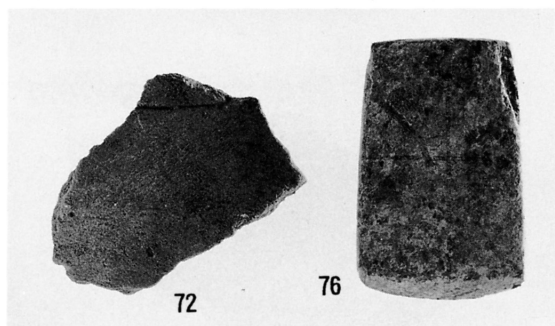
### 1 西土器（にしどき）遺跡（図版9）

鏡池の北側の丘陵で標高約85～100mである。通称、民富岩（みんぶいわ）と呼ばれる場所である。周辺には「瓦ケ尾」「役所屋敷」「御馬所」など遺跡の存在を思わせるような小字が多い。周知の遺跡である下園前遺跡もこの周辺である。断面で成川式土器を採集した。公園や畑地造成のためかなり削平されている。









鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(68)

鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域  
埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅱ)

平成6年3月

発行者 鹿児島県教育委員会  
〒892 鹿児島市山下町14-50

印刷所 アルプス印刷株式会社  
〒891-01 鹿児島市星ヶ峯2-18-12